【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立南波多郷学館
1　前年度 評価結果の概要	・本校の学校教育目標や重点項目について、保護者には定着してきたが、地域の認知度はまだ高くない。継続して周知や共有を行っていく必要がある。 ・義務教育学校開校4年目に入り、ステージ制や教科担任制が定着し「ひとつの学校」という認識が児童生徒・保護者・地域・教職員の間で高まってきた。昨年度からスタートしたコミュニティスクールについての認知度がまだ低いので、地域とビジョンや目標を共有し、「地域と共にある学校づくり」を行っていく。
2　学校教育目標	「ふるさとを愛し、志をもつ児童生徒の育成」 ～　ふるさとに学ぶ　ふるさとを学ぶ　ふるさとの人と共に歩む　～
3　本年度の重点目標	（1）ステージの活動充実 （2）コミュニティ・スクールとしての活動の深化 （3）学校における働き方改革

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告した教師は、80%に届いていないが、年度末までの見通しをもった取組を行っている。	A	・学習状況調査の誤答分析等の校内研修により、ステージでの共通した取り組みを検討し計画して進めることができた。マイプランの成果指標を達成できたと自己申告した教師は、80%に達した。	A	・子ども達の更なる学力向上に向けて全職員で取り組んでほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎・基本の定着と活用力の向上	○『学び合い』におけるアンケートにおいて、進んで取り組み、学習が分かるようになったと回答する児童生徒70%以上。 ○学習状況調査等での「活用力」の問題の結果を、県平均以上。	・朝の時間を活用し、ステージごとに基礎・基本や活用力を高める学習に取り組む。 ・全ての学年で『学び合い』に取り組むことで、思考・判断・表現する場を設定し、その姿を見取り称賛していく。	A	・『学び合い』の取組についてのアンケートによる児童生徒の肯定的な回答が93%。 ・全国学力・学習状況調査において国語科、算数科において県平均以上を達成している。	A	・アンケートにおいて「授業の内容がわかる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童生徒が92%以上。 ・授業で理解したことの定着に課題が見られるが、家庭学習の充実、朝の時間の活用が各ステージで計画的に進められている。	A	・引き続き検証を重ね、より高めてほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校行事や体験活動ごとに個人の目標を立て、実践とふり返りをさせる。 ・教育活動の中で、ほめる（認める）過程を大切にし、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。	B	・各行事を通して、友達と協力する場面や、主体的に行動する場面、認め合う場面などを設けてきた。今後も自己肯定感を高める活動や道徳の学習を継続して行う。	B	・5年生で県教委の人権・同和教育DVDを使った道徳科の授業を実施した。授業後のアンケートで100%の児童が学習内容の「公平」について理解を深めたと答えていた。授業を全学年に広げるのが課題である。	A	・道徳の授業はこれからも大切であると思うのでしっかり取り組んでほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 各担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、防止等のための取組、事案対処等）について、組織的に対応ができていると回答した教員80%以上。	・本校のいじめ防止対策基本方針をもとに、いじめの定義、覚知、認知及び対応について共通理解を図り、全職員で対応する。 ・いじめの理解及び対応についての研修・会議を年間3回以上行う。	C	・いじめの対応については、担任や管理職との連携を取りながら対応できている。 ・支援会議等で児童生徒理解に努めているが、全体研修会は実施できていない。	B	・いじめ防止等について、組織的に対応ができていると回答した職員90%。 ・それぞれのステージで、児童生徒観察や情報交換ができている。 ・講師を招聘しての全体研修会が実施できなかった。	B	・いじめはどこでも起こる可能性があるので、今後もしっかりと子ども達をみていってほしい。	生徒指導主事 各担任
	◎夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○学習や行事の中で達成感を味わわせ、「昨日の自分より成長した今日の自分」を実感する児童生徒80%以上。	・学校や家庭、地域でのあらゆる教育活動の場で、出番を意図的に作り、役割を計画的に与え、しっかり承認する機会をつくる。	B	・発達段階に応じた活躍の場を設けているが、自己有用感を高めることとのつながりが不十分である。	A	・アンケートにおいて自分の成長を感じると肯定的に回答した児童生徒が87%以上。 ・学級経営、ステージ経営の中で児童生徒の出番が計画的に与えられた。	A	・コロナ禍で、児童生徒の活動の様子を見る機会が少なかったのが残念である。	各ステージリーダー 各担任
●健康・体つくり	●運動習慣の改善や定着化	○運動能力調査のDとE判定を30%未満	・昨年度の運動能力調査の結果を分析した結果、上体起こしが全国平均よりも低かったため、補強運動に取り組ませる。年度末に再度、測定し、昨年度の平均値よりも10%向上させる。	B	・運動能力調査の分析から後期課程では、DとE判定が全体の20%であった。体育や部活動等での活動内容が一定の効果があることを示した。運動をバランスよく年間計画で配置していく。 ・上体起こしの向上率は、9%で目標には届かなかったが、補強運動への取り組みをした学年が成果を上げていた。今後も継続して行っていく。	B	・来年度のスポーツテストに向けて、補強運動で体幹トレーニングなどを継続して実施している。 ・アンケートにおいて「昼休みや放課後に進んで体を動かしている」と回答した児童生徒が76%であった。外遊び道具の増加とサッカーゴールの設置、楽しい体育授業などを通して、体を動かす機会を作ることができたと考えられる。	B	・コロナ禍で部活動が停止になったりして十分体を動かすことができなかったのではないか。	体育主任 体育副主任 各担任
	○感染症予防教育の充実	○学校及び家庭生活において、手洗い・うがい・消毒の習慣がついている児童生徒90%以上	・感染症予防の知識や意義、実践方法を全学年、発達段階に応じて保健指導を行う。 ・健康委員会の呼びかけやポスター作成を行う。	B	・担任による感染症予防の呼びかけを続けることができた。今後、感染症予防に関する保健指導を養護教諭と協力し、行っていく予定である。 ・健康委員会の呼びかけやポスター作成を行っているが、目標値90%以上まで至っていない。体育、給食前後での呼びかけを徹底し	A	・アンケートにおいて「手洗い・うがい・消毒の感染予防がきちんとできている」と回答した児童生徒が96%であった。このことから継続して給食前後、体育後など手洗い・うがい・消毒を呼びかけることができたこと、健康委員会の呼びかけやポスター作成が効果的であったと考えられる。	B	・コロナの感染者が出た現状を考えると、指導が効果的だったかどうか検討を行う必要があるのではないか。	養護教諭 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●1年間の時間外勤務の合計が、360時間以内となる職員の割合を100%にする。	・毎週水曜日を定時退勤日とし、確実に履行する。 ・部活動の活動時間についてはガイドラインに則って運用する。 ・負担が少人数に集中しないように職員の協働体制を構築する。	B	・部活動の活動時間は、ガイドラインに則って適正に運用することができている。 ・時間外勤務の月平均が40時間前後となっている。毎日10分間早く帰るよう呼びかけ、月平均を3時間削減する。	B	・部活動の活動時間については適正であった。時間外勤務は、部活動終了後1時間をめどに帰宅を促し、わずかではあるが早まってきた。教職員の協働体制について肯定的な評価が65%だったので、今後も特定の職員に過重な負担がいかないよう気をつける必要がある。	B	・ICTの活用を進めたり行事の精選を進めたりして業務の効率化を進める必要がある。	管理職（教頭）

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○義務教育学校4年目「充実期」の基礎作り	○9年間の枠組みでの体制づくり ○ステージリーダーを中心とした各ステージ経営の充実	○教職員のステージ経営の充実及び満足度90% ○各ステージの最上級生としての自信及び満足度90%	・ステージ経営方針に沿って、OJTを核とした共通理解と実践を図る。	B	・定期的なステージ部会により、共通理解を図ることができている。 ・各ステージの最上級生としての役割を与え、達成感をもたせる手立てをとってはいるが、90%までは至っていない。	B	・ステージの最上級生としての自覚をもち、達成感を味わって満足度をもった児童生徒は81%。一部の児童生徒に役割が偏らないようにする必要がある。	B	・ステージごとの取り組みが進められ、ステージ制が少しずつ定着している。	各ステージリーダー
○地域とともにある学校づくり	○コミュニティ・スクールの周知と機能の充実	○教職員及び保護者、地域住民のコミュニティスクールの仕組みや取組内容の認知度90%以上	・学校HPや学校便り、コミュニティースクール便り等を通して積極的に情報発信をし、周知及び啓発を図る。	C	・学校便りやコミュニティスクール便りを出して周知を図った。ただ、学校HPにコミュニティスクールコーナーを作成するまでには至っていない。今後、ホームページの手直しを行い、コミュニティスクールコーナーを作成する予定である。	B	・コミュニティスクールの認知度について、地域は昨年度41%だったが本年度は52%と上昇している。また保護者は78%、職員は90%が認知しており、今後引き続き、情報発信を続けたい。なお、学校HPの手直しを行いコミュニティスクールコーナーを作成し、今後活用を進める予定である。	A	・地域でのコミュニティ・スクールの認知度はまだ半分程度なので今後も広報を続ける必要がある。 ・本年度からクラブ活動に地域人材を活用したが、大変良かった。	管理職（副校長）
○一人ひとりのニーズに応じた個別指導の充実	○特別支援教育の充実	○特別支援学級および通常学級において支援を要する児童生徒への指導・支援の教職員の満足度90%以上。	・校内における児童生徒の支援や見取り。 ケース会議や関係機関を招聘しての職員研修を充実させ、「誰でもできる特別支援教育」を目指す。	B	・校内における児童生徒の支援や就学支援を行った。 ・西部教育事務所から武富先生を招聘しての職員研修を充実させ、通常学級でもできる特別支援教育について理解を図ってはいるが、満足度90パーセントには至っていない。	A	・特別支援の満足度について、職員アンケートの結果おおむね満足しているが8割だった。学校全体を支援していくことが不十分だった。支援を要する児童生徒が多数いるので、限られた時間で少しでも多くの児童生徒の支援をしていくことが今後の課題になる。 ・コロナ禍の中だったか、外部から講師を招聘し職員研修をすることができたことは有意義だった。	A	・これからも適切に対応してしてほしい。	特別支援教育コーディネーター

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・本年度は南波多郷学館9年プランの【充実期】（開校4～6年）に入った。 到達目標3：郷学館で学べば児童生徒の力が確実に伸びる　到達目標4：郷学館に勤務すれば教職員の指導力が確実にアップする を達成するために、本年度から全ての学年で『学び合い』に取り組み、児童生徒からは肯定的な回答が9割を超えた。授業で理解したことをどう定着させるかが今後の課題である。 ・コミュニティ・スクールとしてスタートして2年目を迎えた。 到達目標5　：　郷学館の教育活動が南波多の地域振興につながる を念頭に、クラブ活動での地域人材の活用に取り組むなど新たな取り組みを行った。徐々に地域、保護者の認知度は上がりつつある。今後も工夫して情報発信を続け、認知度を上げたい。